○４月「発達障害啓発週間（４／２～４／８）」「世界自閉症啓発デー（４／２）」

十島村教育委員会だより　令和３年３月号

しわやかトカラ情報

十島村教育委員会
〒892-0822
鹿児島市泉町13番13号
TEL　099-227-9771

南北１６０km
「心をつなぎ　気概に満ちた」十島の教育

自分らしく　たくましく

十島村教育長　有　村　孝　一

いよいよ令和２年度も残すところあと１０日余りとなりました。振り返ってみますと、新型コロナウイルス感染症との戦いが続いた令和２年度でした。令和２年３月から感染症に対する予防や対策についてお願いをしてまいりました。あれから１年が経とうとしています。少しずつではありますが、新聞やニュースの情報から減少傾向であるようには感じられますが、未だに収まる気配は見られません。

振り返ってみますと、新型コロナウイルスの感染だけでなく、梅雨時期の大雨や台風そして火山などの自然災害、ヘリコプターを使った島民避難など、「命を守ることの大切さ」について改めて振り返る一年だったなあと回想しています。

そんな中で、子どもたちは、南日本新聞への投稿などを通して、十島村の広報をしてくれました。例をあげますと、南日本新聞「若い目」に、４月「ぼくのにゅうがくしき」「離れていても友だち」「強い大人への第一歩」が投稿され、その後も「大雨の中、協力し合った島」「牛の世話、いまこそ手伝いがんばる」「頑張った白組」「対馬丸の悲劇　伝える大切さ」など、いろんな視点から素直な気持ちで、自分たちの頑張りや友だちとのかかわりを作品にして投稿し続けてくれています。

全島で、子どもたちの「書く力」を伸ばそうと取り組んできたことを裏付けるかのように、作文コンクールで学校賞に選ばれたり、県作文コンクールや俳句でも入賞を果たしたりしました。作文だけでありません。絵画でも、南日本ジュニア美展や「地域が育むかごしまの教育県民週間」ポスターコンクールや家庭の日ポスターコンクールで学校賞を受賞しました。県書道展や絵手紙コンクール、「チャレンジかごしま」など運動面でも受賞し、様々な作品募集における数々の入賞は、１５０点を越えています。

それは、子どもたちの挑戦してきたあかしであり、先生方が子どもを伸ばそうとする指導の裏付けでもあります。３学期の始業式の時点での児童生徒数は、１０２人と１００人をついに越えました。長いこと待ち望んでいた３桁の数です。この中から、卒業式、修了式を終えると、何人かが島立ちをします。十島村で学んだ多くの経験を「生きる力」に変えて、一歩一歩これからの長い道のりを歩んでいってほしいと思います。そして十島で育った「たくましい心と体で」挑戦を続けていって欲しいと思います。

島民の皆様には、子どもたちの成長にたいへんお世話になり、心から感謝申し上げます。まだまだ、新型コロナウイルスの感染の動向が気になりますが、新たに着任する教職員や山海留学等で転入する児童生徒にも、変わらぬご支援をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

俳句・川柳

平島小・中学校児童生徒会新聞より

卒業式　中学生への　第一歩
小学六年生　古里　樹

卒業後　「さよなら」一つ
別れつぐ
小学五年生　塚田　昂

早かった　あと一ヶ月で　三年生
中学二年生　奥薗　和

読書活動のお礼

今年度も、県図書巡回図書の本が、返却されました。読書活動にご協力いただいただけでなく、丁寧に本を取り扱っていただきありがとうございました。返却箱の中も順番に並んでいる島もあり、県立図書館の方からもお褒めの言葉をいただきました。

【新聞に投稿】

令和３年2月15日　南日本新聞「若い目」掲載

「島の大自然のよさ実感」
宝島小学校五年　舟木蒼哉

東京から宝島に山海留学して二年になります。東京では欲しい物を買うお店がありました。いつでも外食ができる環境にありました。宝島に来た当初、東京のような便利な生活が送れず、不便を感じたことがありました。しかし今は違います。不便さよりも大自然のよさを実感して生活しているからです。

僕は海が大好きです。特に宝島の海は、底まで透き通ってよく見えるほどきれいな海です。水族館でしか見たことのないウミヘビやウツボを見ました。ウミガメにも出会いました。こんな貴重な体験は、宝島にきたからこそできたのだと思いました。

映像や水族館で見るのと、実際に間近で野生の海の生き物を見るのと、何が違うのだろうと考えました。実際に見た方が貴重で心に残ります。ぼくはこれからも、この宝島の自然を大切に留学生活を続けていきたいと思います。

令和３年２月２３日　南日本新聞「若い目」掲載

「自然から聞こえる音」
中之島中学校一年　羽生深理

僕は中之島で「自然の中から聞こえる音」が好きです。朝起きると、山の方から鳥のさえずりが聞こえます。その音を聞くと気持ちが穏やかになります。

中之島にはさまざまな渡り鳥が来るので、季節ごとに鳴き声が変わり、音で春夏秋冬を感じることができます。そこに海から聞こえる波の音が加わり、気持ちが落ち込んでいる時には励ましてくれる音に聞こえます。都会ではなかなか味わえない自然の中から聞こえる音が、中之島では毎日、絶え間なく聞こえます。この音が聞こえてくる自然をいつまでも大切に守って、生活していきたいと思います。

令和３年３月３日　南日本新聞「若い目」掲載

「自分にいどむ」
小宝島小学校三年　岩下　明日香

「何にしよう」。そうつぶやいて、書き初め大会で何を書くかをなやんでいました。

わたしたちの小学校では、一月に児童生徒全員で書き初め大会をします。今年は、密をさけるために、それぞれの教室で書き初めをすることになりました。

決まったのが、「勝負する」という字です。今の自分と勝負すること。つまり自分にいどむ、ちょうせんするという意味をこめました。まず、わたしをなやませたことは四文字だということです。四文字を書くのははじめてなので大変でした。一番むずかしかったことは、「勝」の字です。月は書けますが、みぎがわの字がむずかしくてなかなかうまく書けませんでした。

今の自分に勝つために、時間ぎりぎりまで練習をしました。せい書の時間になり、最後の一まいを書いたとき、「よし、できた」と心の中で思いました。書き初めで書いたように、今年は新しい自分にちょうせんする年にしたいです。

十　島　村　で　学　ぶ

【平島で学ぶ】

平島中学校２年　大城　朱茜

私は、小学校5年生の時に福岡から平島に来ました。平島では、寮で他の寮生や寮監さん、寮母さんと毎日楽しく生活しています。学校でも、お互い支え合いながら、学習に取り組んでいます。私は平島に来て、海や星空の美しさに驚きました。私は泳ぐことや宇宙についての本を読むことがとても好きだったので、福岡にいたときは、プールに泳ぎに行ったり、科学館のプラネタリウムを見に行ったりしていました。平島では、それを大自然の中で体験できたことが嬉しかったです。学校生活では、テストに向けて勉強に頑張っています。学校でのテストを受けるときは、悔いが残らないように心がけています。過去の自分が取った点数を超えられるよう、毎日、他の寮生と刺激し合いながら勉強に取り組んでいます。平島に来て、たくさんのことを学ぶことができました。平島にいられるのは限られた時間なので、何事にも全力で取り組み、島を出るときに後悔しないようにしたいです。

【宝島小・中学校からのメッセージ】

教諭　戸崎　寿彦

「戸崎君，高シナジー（synergy）という言葉知ってる？」これは以前勤めていた職場の先輩が，事あるごとに，私に聞いてきた言葉である。そして，この後の話を聞くのが大好きで，決まって「知らないです。教えてください」と答えていました。シナジーとは，2 つ以上のもの，人，事柄が相互に作用し合い，1 つの効果や機能を高めることで，「相乗作用」を生み出すだすもので，その根底には，利益を生み出すことが前提にあります。しかし高い次元のシナジーになると，自分の立場や地位を利用したり，相手にへりくだったりするのではなく，ましてや相手を自分の思うままにコントロールしようとしないで，あくまでも対等な立場で，相手の意見の違いを尊重し理解を示してから，自分の意見を主張し，自分の強みと相手の強みを上手く足し算して1+1を３にしていく。そんな職場にするのが理想なんだよね。先輩はいつも熱く語ってくれました。

宝島に赴任して２年目になりますが，島の生活はまさしくこの高シナジーであると実感します。それぞれがもっている知識や技能を十二分に発揮し，しかもそこには利益ではなく心でつながり，豊かな生活を生み出しています。

宝島のために何ができるか。私は，教科指導で子どもたちに力を付けさせることはもちろん，これまで培ってきた花づくりのスキルを活かして，花いっぱいの学校を目指し日々取り組んでいます。島民の方に花を楽しんでもらい，それがまた，新しい相乗作用を生み出せないかを模索しながら・・・。

『教職員仲間であるあなた』への　私からのメッセージ

１０年前に得た花づくりのスキルが，現在大きな武器となって自分自身の支えになっています。多くの役割を担い，大変なこともあるかと思います。しかし，その経験は思いがけないところで，必ず活かされることになります。